

災害との出会い

防火防災部長：渋谷 修身

災害の話をするときりがありません。

電力会社に勤めていたので、大きな災害イコール停電でした。停電に関わる災害は、地震、台風、大雨、大雪などですが、私の体験した主なものについて話してみます。

私は、昭和32年に入社、災害との最初の出会いは、36年の第2室戸台風でした。室戸岬付近に上陸、そのまま日本海に抜け海岸沿いを北上、新潟県通過は夜中でした。寝ずに通過するのを待ちました。明るくなる頃には風も収まってきました。9月のことで、農家の収穫時期であるのに停電が長引いて皆さん大変な思いをされました。

2つ目は、38年の雪害です。サンパチ豪雪とも言われています。一階の屋根近くまで雪が積もり、引き込み線が雪に埋まり、引き込み線をまたぎながら、人が躓かないように、目印に赤い布を引き込み線に巻きつけていきました。

3つ目は、新潟地震です。39年6月、その時私は新潟駅前の福対協のビル（大きく傾いて、今はありません）の5階で、労働組合の大会に出席していました。5階から階段を降りるとき、ここで死ぬかと思いました。また、駅前のいたる所か

ら水が噴き出していました。いわゆる液状化現象の現れです。

4つ目は、羽越水害です。41年・42年と2年続けての大雨でした。被害は42年の方が大きく、加治川・胎内川・荒川と下越に集中しました。名物の加治川の桜も河川改修で無くなりました。最も被害が大きかったのは荒川で、支流沿いにあった家屋の多くが土石流に押し流されました。

大水害の中で、今も語り継がれている「横田切れ」について触れてみます。今から120年前、明治29年7月、燕市横田（当時の横田村）で信濃川の堤防が決壊し、新潟市は勿論、越後平野が広大な水たまりになりました。この水害がきっかけで大河津分水ができ、そのおかげで分水から下流の水位が下がり、それまで決壊を繰り返してきた小阿賀野川の水はけが良くなり、堤防も決壊することがなく、亀田郷の水浸しもなくなりました。

以上4つの災害に匹敵する災害は、その後下越では発生していませんが、いつ発生するか分かりません。今でも台風や大雨になると当時のことが思い出されて、落ち着きません。

災害は、この先も続くでしょう。今度はどんな災害に遭遇するか、地球温暖化で想像を絶する災害に見舞われるのではないかと不安がぬぐえません。



平成29年10月1日実施

合同防災訓練のまとめ

防火防災部会
での討議を中心
にまとめまし
た

平成29年度の参加者

おとな		こども (幼児を含む)	関係者 (消防署員等)	計
男性	女性			
184	195	30	22	431

《救護班》を振り返って

班長：山田 喜孝

初めての救護班：今回のテーマは、怪我をした人が避難所に避難されたことを想定した訓練を行うこととしました。

➡そのため10の自治会に協力をいただき、15名の模擬の負傷者をあらかじめ設定して訓練に臨みました。

◇事前の想定では、①避難が完了したところに声掛けを行い、負傷者を受け付ける。

②負傷の状況により、救護班での応急手当可能な場合は黄色の「救護班行」のカードを表示する。

③救護班での対応が困難な場合は、赤色の「救急搬送」カードを表示する。という手順で訓練を行いました。

訓練を実施しての反省は、受付方法や受付人数の再検討が必要だと感じました。また、負傷者の状況も具体的に事前の設定を行い、受付時にリアル感を持たせる等の工夫が必要だと感じました。さらに、車椅子の配備の必要性も感じました。

今後は、避難所において配慮が必要な、妊婦、障がい者、要介護の方、外国人及び子どもだけで避難してきた方等の配慮もしていく必要があり、課題が山積みです。

《食糧班》 次年度の実施に向けて

班長：山田 英典

今年度は、新しい試みを入れた訓練を実施してみました。

➡電気、水道、ガス等、普段当たり前に使っている社会インフラが失われた時、いかにして食料を調達してお腹を満たすのか？


【テーマ】<年に一回位、自分の身の廻りを良く見、どうしたらそれが可能か、想像してみよう>

非常時・災害時の食糧調達の提案や情報は多いが自分にできることを検索し、実際にやって味わってみるのが重要と考え訓練に取り入れた。

そうしたらいろいろ面白いことが分かった。私たち食糧班は来年以降も、避難所でも自宅でも可能なちょっと面白い非常食を提供できるよう情報をかき集め、用意してお待ちしたいと張り切っています。



《環境班》		班長：山田 正樹
項目	今年度の状況	課題
今年度の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所生活用品は、興味を持って見てもらったが、数が足りなかった。 ・スペースを広げ、もっと多くの参加者が触れたり組み立てができるとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当者の事前の打ち合わせが必要だった。 ・誘導に案内板の設置が必要である。(環境班は三か所)
30年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・種類を増やし、ブースの充実を図る。 ・展示スペースを設け、寸法・価格などを表示する。 ・訓練の3班を事前に分けてもらう。(自治会に依頼) 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者に商品説明を依頼し、実施してもらう。 ・集会時に各担当の打ち合わせを行っておく。
中長期の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度方式で3年間続けて行うことで、スタッフも慣れていくと思う。 ・これ以上参加者が増えると、会場分割が必要となるため会場管理責任者との話し合いが必要である。 ・今後は、各担当者の専門研修を受けることで、スキルアップを図る。 	

【全体反省】		情報班長：黒井 秀一
不特定の参加者から、本訓練についての要望・改善点を聞いたところ、下記のような意見をいただいた。		
<ol style="list-style-type: none"> 1 床に長時間座れない人の対策が必要 2 救護班の設置位置が分かりにくかった 3 各班への引率案内が不徹底であった 4 子どものみの訓練を実施してはどうか 5 調理経験ができてよかった 6 案内放送が聞き辛かった 7 コミ協で便所のスリッパ (@3×6か所) を用意してはどうか <p>◎ 過去数年の訓練で今年が一番良かった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 椅子を用意し、スペースを別に用意する。 ➡ 分かりやすい案内板や案内係をつくる 	
《消防署 佐藤様の講評から》		
◇ 本人の希望で訓練内容を選べるようにしてはどうか	◎ 3班に分かれての訓練はよかった	
<p>援助物資の必要品の譲り合い、看護師等有資格者の相互の派遣等、近隣避難所との情報の共有体制を整える必要性を感じた。</p> <p>「災害はわすれたところに・・・」との諺があるが、近年は頻繁である。</p> <p>多面的な情報の収集に努めたい！</p>		

平成30年以降に向けて

平成29年度は、各自治会にお願いして「地震が発生した時の共助に第一歩」として『タオル表示』を提案し実施しました。

自治会によっては、100%から0%までありました。趣旨が十分伝わったとは思えない意見もありましたので、再度表示してみました。今後、何度も話し合い「自助・共助（近所の助け合い）」がスムーズに展開するよう努力したいと思います。

地震等の災害が発生した直後の行動訓練として、玄関にタオル表示を呼びかけ、実施した自治会の反省をまとめました。➡以下にその意図を再確認の意味で表記してみます。

①【自助】 先ずは、自分自身の安全確保、在宅家族の安全確保

➡安全を確認後、「白タオル」を玄関に掲げて、必要により避難を行います。

②【初期共助】その後、隣近所（自治会の班、組単位）の行動として隣近所の声掛けを行います。

➡「白タオル」の役割は、声掛けのスピードアップを図ることが目的です。

玄関先で、応答があるまで待つ時間を、救出、救護の必要な人や初期消火に充てることができます。

「白タオル」を揚げていない家庭や、避難行動要支援者宅への声掛けを行い、安全を確認できた場合も玄関先に「白タオル」を掲げます。

「白タオル」掲示は、各自治会で掲示方法や掲示場所を事前に話し合い、ルールを決めておくことが重要です。

➡例として、マンション等の集合住宅では、タオルではなく、白色のマグネットシート使ってドアに貼り付ける方法も考えられます。

平常時は、玄関のドアの内側に貼り付けて置き、必要時に玄関ドアの表に貼り付けるとよいでしょう。

